

2018年度

中国ブロック・ユネスコ活動研究会 in 宮島

“世界遺産”が拓くユネスコ運動の未来

開催日 2018年9月29日(土)

会場 広島県廿日市市宮島 宮島ホテルまこと

主催 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
中国ブロック・ユネスコ連絡協議会
広島県ユネスコ連絡協議会

主管 宮島ユネスコ協会 広島ユネスコ協会

後援 広島県教育委員会 廿日市市 廿日市市教育委員会 一般社団法人宮島観光協会

協力 厳島神社

2018年度の中国ブロック・ユネスコ活動研究会は、9月29日(土)、世界遺産・厳島神社の地元・広島県廿日市市宮島で、中国5県の県・地域ユ協代表、日ユ協連の皆さんが参加して開かれました。

当初29・30日の両日開催の予定でしたが、台風接近の事態にもあり、急きょプログラムを一日に短縮して開かれました。

参加者の内訳は広島県ユ連協から28名(うち広島ユ協20名)、岡山県6名、鳥取県4名、島根県2名、山口県24名、ESD顕彰受賞団体8人、講師の西村幸夫先生、日ユ協連、廿日市市、一般聴衆(2名)の皆さま合わせて79名でした。

研究会の冒頭では、日ユ協連・大橋洋治会長(代読・池本和人連盟理事)、中国ブロック・ユ連協・鈴木昌徳会長、広島県ユ連協・亀井章会長の挨拶の後、廿日市市の眞野勝弘市長が祝辞を述べられました。



基調講演 ～「世界遺産が目指すもの」

続いて日本イコモス国内委員会委員長の西村幸夫・神戸芸術工科大学教授（工学博士）が、「世界遺産が目指すもの」と題して講演され、「世界遺産を守る原点は、紛争時にあって、文化財を対象にしない」との取り決めをしたハーグ条約（武力紛争の際の文化財の保護に関する条約＝1954年締結）に出発点があると強調された上で、世界遺産は「世界の危機に直面した文化遺産を世界で守る」ことだけでなく、「世界の多様な文化を認め合い、相互理解をしていくことが、平和を築くことにつながる」と、その意義を語られました。



中国ブロック・ユネスコESD活動団体顕彰

注目の2018年度の顕彰団体授賞式では、中国5県で6団体（1人は個人）が紹介されました。①岡山県・北房ホテル保存会（真庭市）②鳥取県・吉田芽穂子さん（個人・鳥取市）③島根県・大田市立長久小学校④山口県・周南市立和田中学校⑤広島県 廿日市市立宮島小・中学校⑥広島県 廿日市市・宮島弥山を守る会の皆さまです。





授賞式のあと活動内容の発表があり、受賞団体から、ユネスコ精神にのっとった環境保護や自然景観の保全、伝統芸能の継承、宮島の歴史を学び自らの生き方を考える、宮島弥山を清掃など、熱心でユニークな、地域に根差した活動が紹介され、注目されました。(活動の詳細は別表資料で)。

授賞式のあと中国ブロック・ユネスコ連協会議がもたれ、夕方から夜にかけての集いでは、日本ユネスコ国内委員会報告、来年の開催地岡山県をはじめとする中国ブロックの各県連報告などがありました。各テーブルでは、会食を交えながら日頃の活動紹介や情報交換など、食事を囲んで終始、和やかな会話に華が咲きました。こうして有意義な研究会を終えることができました。



ご参加いただいたユネスコ関係者の皆さま、役員の方々には、台風の接近、上陸という悪天候の中での開催に際し、ご心配とご苦勞をおかけいたしました。プログラムの急きよの変更ともなりましたが、皆様の厚いご協力により、無事に終了することができました。心から御礼申し上げます。

研究会に参加しての感想 広島ユネスコ協会副会長 世木田寛子

台風 24 号が近づいてきているということもあり、日程が大幅に変更され、初日のレセプションの中に、2日目の内容を導入する形となった。

今回、特に印象に残ったことは、ESD 推進団体の表彰だ。「自分たちに出来ること」という目標のもとに、自分たちで考え行動をしている大田市立長久小学校（島根県）の発表は、根底に「郷土愛」が定着していた。この精神は、他の活動・発表にも共通するものであり、どの発表も「ほっ」とする気持ちで聞き入った。このような「ほっ」を見つけ増やしていくことが、私たちの活動の目標の1つでもあり、これからの広島ユネスコに生かしていきたいと、改めて思った。

℃ ℃ ℃（ド、ド、ドー）と、やっていこうと思える、素晴らしい研究会だった。

■別添資料～ESD 顕彰団体の活動内容